

第3学年2組保健体育科学習指導案

学習指導者 教諭 杠 由梨

1 日 時 平成25年6月12日(木) 5校時 3年2組教室

2 題 材 体育理論 「文化としてのスポーツの意義」

3

(1) 題材観

今日、スポーツは人々の生活に深く関わり、スポーツを行うことだけでなく、テレビや雑誌などのメディアで見ることや直接競技場に足を運んで試合を観ること、大会の運営や競技会の企画などでスポーツを支えることなど多様な関わり方がある。このような多様な関わりの中で、スポーツを積極的に生活に取り入れることは、生活を明るく豊かなものにする有効な手段であり、そのための力であるスポーツ文化享受能力を培うことが体育理論の学習の大きな目標と言える。本単元では、スポーツの文化的意義のひとつである国際親善や世界平和をもとに、スポーツとの関わり方について深く考えるためにとても良い題材である。

(2) 生徒観

学年全体の雰囲気がよく、活動的で何事にも前向きに取り組める。本学級の生徒(男子20名、女子14名)は個々に課題を持って取り組むことができるなど、意欲的に活動する生徒が非常に多い。そして、活動するときと話を聞くときのけじめもあり、場をわきまえた発言ができる集団である。

(3) 指導観

これまでの学習の中で、お互いの違いに気づき、相手の能力に合わせて自分の行動を考えることができるようになってきた。また、生徒と生徒だけではなく、指導者が求めているもの、意図していることは何なのだろうかと、推測する力も見えるようになってきた。生徒の興味関心が高いものを取りあげるとともにグループ活動を取り入れた学習形態の工夫を行う。

4 学習指導計画(全3時間)

- ・現代生活におけるスポーツの文化的意義・・・・・・・・1時間
- ・国際的なスポーツ大会とその役割・・・・・・・・1時間(本時1時間)
- ・人々を結び付けるスポーツ・・・・・・・・1時間

5 本時の学習指導

(1) 目標 メディアの発達によって、スポーツの魅力が世界中に広がり、オリンピックや国際的なスポーツ大会の国際親善や世界平和などに果たす役割が一層大きくなっていることに気づくことができる。

(2) 確かな学力を身に付けるための工夫

- ・写真や映像による事例を基に、生徒同士の意見交換を用いて、習得した知識の活用を図る場面を設けた。
- ・生徒が習得した知識・技能や自己の思いや考えを言語活動として表現し、お互いのよさに気づきながら、共に高め合う姿を目指す。

(3) 学習指導過程

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価基準
導入	1 「なでしこジャパン」について知る。	・「なでしこジャパン」の表彰式の写真を見ての、各自の考えを発表させ、本時の学習課題につなげる。	
展開	2 本時の学習課題をつかむ。		
	国際的なスポーツ大会は、国際親善や世界平和に貢献していることを理解しよう		
	3 「なでしこジャパン」のワールドカップ優勝前と優勝後の選手たちの生活を比較する。	・写真等の資料から、チームや選手の生活に大きな変化があったことに気づかせる。 ・選手たちの生活に起こった変化は、メディアの発達による影響が大きいということを理解させる。	【思考判断】 ワールドカップ前後の様子を比較し、考えをまとめたり発表したりすることができる。
4 ワールドカップドイツ大会の特色について考える。	・大きな大会は、人々の様々ないを踏まえて企画・運営されていることに気づかせたい。	【知識・理解】 国際的なスポーツ大会が果たす文化的な意義や役割について発表したり、書いたりできている。	
5 「差別撤廃宣言」や「東日本大震災」に対する、世界の人々の行動について考える。	・「差別撤廃宣言」を読んでいる澤選手の動画を見せながら、澤選手の願いや思いが、メディアの力で全世界に広がったことを知らせ、スポーツの国際親善や世界平和に果たす役割を具体的に実感させる。 ・班で意見を交換しながら、共有化を図る。		
まとめ	6 ワールドカップサッカーブラジル大会のスローガンを考える。	・班内で各自の意見を交流させ、一つの意見にまとめさせる。 ・理由を明らかにさせてスローガンを発表させる。	
	7 本時のまとめをする。	・国際的なスポーツ大会の果たす役割について気づいたり、学んだりを短文にまとめさせる。	